



今月のiQuokka!

東松山の特産品 旬を味わう梨

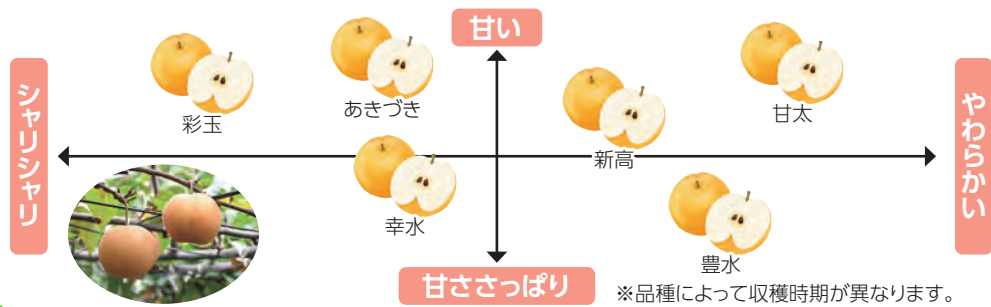
みずみずしい果汁と上品な甘さが魅力の東松山の梨。直売所には朝採れの新鮮な梨が並びます。今回は東平梨組合の組合長、柳澤さんにお話を聞きました。生産者さんのこだわりが詰まった旬の味覚をぜひ味わってみてください。



東平梨組合長
柳澤誠一さん

東松山の梨はシャキッとした食感とみずみずしさが自慢です！毎年、お目当ての品種を楽しみに訪れる常連さんもいらっしゃいます。梨の甘みは下の方に溜まっているので、冷蔵庫で保存するときはヘタを下向きに置くと甘みが全体に行き渡りますよ。

あなたの好きな梨はどれ？



梨を使ったスイーツもチェック！



東平の梨ピューレを使用し、梨のおいしさをギュッと詰め込んだゼリー。梨を1年中楽しめる。



プレミアム(左)は彩玉のドライ梨入り。おうち時間や手土産にいかがですか。

農産振興課
☎21-1400
☎23-7700



市HP

このコーナーでは、市がおすすめする旬のイベントや施設等を紹介しします。皆さん、早速出かけてみませんか。Instagramでも情報発信中！



東松山市公式

Instagram

higashimatsuyama_city_official



まちかど スケッチ

からだの衰え度チェック



6月9日(火)、総合会館で「東松山市×カーブスジャパン共催からだの衰え度チェック」を行いました。参加者はバランスチェック、太ももの筋力チェック、握力チェックなどを体験しました。片足を伸ばして座った状態から反動をつけずに立ち上がる太ももの筋力チェックを行った参加者からは「実際にやると難しい」などの声があり、年齢によるからだの変化を実感していました。



青空と緑に包まれ、心も体もリフレッシュ



6月13日(土)、東松山ばたん園で「みんなでパークヨガ」が開催されました。青空のもと、柔らかな風や木々の緑を感じながら、心地よく体を動かしました。参加者からは「自然の中で体を動かしてリフレッシュできた」との声も聞かれ、心も体もスッキリと癒やされるひとときとなりました。



この広報紙にあなたが写っていましたら広報広聴課へご連絡ください。写真や写真データを差し上げます。

ミニ情報

人口と世帯(7月1日現在)

人口	91,238人	(+ 28)
男	45,723人	(+ 6)
女	45,515人	(+ 22)
出生(6月中)	41人	(- 2)
死亡(6月中)	68人	(- 18)
転入等(6月中)	363人	(+ 23)
転出等(6月中)	308人	(- 12)
世帯数	44,631世帯	(+ 46)
*()は前月比		

交通事故発生件数(6月中)

発生件数	336件※
人身事故	35件(死者:0人、けが人:40人)
物損事故	301件
※東松山警察署管内(東松山市、滑川町、川島町、吉見町)の件数	

火災と救急件数(6月中)

火災件数	3件
救急件数	458件(交通:13件、急病:281件、その他:164件)
搬送人員	398人

ごみ処理に関する情報

生ごみ処理容器キエーロの販売実績
(令和8年度)

54基

引き続き、ごみの減量にご協力をお願いいたします。

詳細はこちら▶



市HP

スポーツって、楽しい！



6月13日(土)・14日(日)、市内の体育館でスポーツ発見教室を開催しました。こどもたちの「運動の楽しさ向上」を目的に開催され、大東文化大学の先生や学生の皆さんが、体の動かし方や運動のコツを教えてくださいました。こどもたちはフラフープやトランポリンのほか、光や音を出すモトタイルなど珍しい道具を使った様々な種目に挑戦し、笑顔で交流していました。楽しく体を動かし、運動の魅力を感じられる教室となりました。

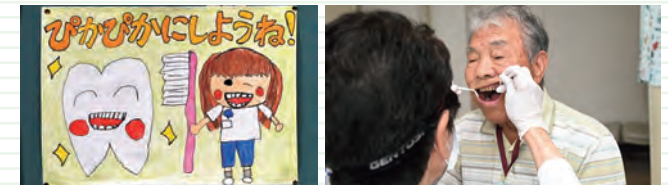


健康な歯は宝物



6月14日(日)、保健センターで比企郡市歯科医師会による「歯の健康祭り」が開催されました。

91歳の人も参加した8020よい歯のコンクール審査では、歯科医師2人によるダブルチェックも行われ、表彰者は「お墨付きをいただいたようで、今後の健康づくりの励みになります」と話していました。また、小・中学生による図画・ポスター作品コンクール受賞作品の展示と表彰も行われました。



【大暑】最も暑い真夏の頃。7月末から8月にかけて。

これを書いている6月、次は何を書こうかと思っていた矢先、旅先でカマボコを見て、ガマを思いつきました。

こどもの頃読んだ「因幡の白兎」に出てくる、とても魅力的な植物です。作中でも、毛をむしり取られたウサギに、ガマの穂の上に転がるように、というくだりがあります。ガマに薬効成分があると知ったのは、大人になってからですが、当時からなんか効きそうと思っていました。

蒲の穂は、かまぼこの語源という説が有名です。今のかまぼこと違い、平安時代のそれは、板のつておらず細い竹や木に魚のすり身を着けて、焼いたものだったとか。ちょうど、成熟したガマの穂に形が似ていたので、蒲穂子→蒲葦子になったようです。

成熟したと書きましたが、ガマの開花はもう少し前の5~6月です。上から1/3くらいが雄花で鞘に包まれているが、先に充実してその下の雌花に黄色い花粉を降り注ぎます。すると、緑色だった雌花は反応して、徐々に茶色いガマの穂へと成熟していくのです。雌花が成熟したころ、役目を終えた雄花は、まるで最初からいなかったかのように、姿を消し軸だけが残るのです。同じ雄として悲哀を感じてしまいます。

いよいよ成熟した雌花穂は、風によって崩壊、ガマの穂綿となって飛び散ります。ガマも動物園に来てから、初めて実物を見た植物の一つですが、昔はキリンの放飼場で見ることが出来ました。今は「やとこの里」で見ることができます。大量の種子でゆくゆくは、ガマに埋め尽くされそうです。

★ガマ(蒲)…ガマ科ガマ属の多年草で抽水植物→水底に根を張り、ほとんどを水面上に出して生育する水生植物。水質の浄化に貢献しています。

ガマの花粉は、漢方で穂黄と呼ばれ、止血や傷薬として古くから使われているとか。雄花、役にたっています。

※9月号は動物ZOO鑑です。



谷戸のガマ



鞘が落ちて、雄花が充実するころ



花粉が降り注いだあと



これぞガマの穂、風で飛びにはまだ

